



# ごみスリムリっとう 48 vol.

## 事業報告

### ごみ減量とリサイクルに関する学習会

10月24日(土)開催 「食品ロス削減の為 今できる事」

滋賀県地球温暖化防止活動推進員 本江宗明さんをお迎えし、食品ロス問題の現状、世界での取り組み、日本での取り組み、私たちが出来る取り組みについて講演いただきました。

食品ロスとは、本来食べられるのに廃棄される食品のことです。

日本全体では、年間612万トンの食品ロスが発生しているといわれています。そのうち、食品関連事業者が328万トン、一般家庭が284万トンと推計されています。<sup>(※1)</sup>そのため、食品ロス削減には事業者、家庭双方の取り組みが必要となります。

世界では、2015年に国連サミットで採択された持続可能な開発目標 (SDGs、Sustainable Development Goals) の目標の中で、ターゲットの一つに、「2030年までに小売・消費レベルにおける世界全体の1人当たりの食料の廃棄を半減させ、収穫後損失などの生産・サプライチェーンにおける食料の損失を減少させる」という目標 (ターゲット12.3) が盛り込まれました。

日本では、平成12年に施行された「食品リサイクル法」において、食品廃棄物等について、食品関連事業者による取り組みを促進しています。また、令和元年10月1日に「食品ロスの削減の推進に関する法律」が施行され、消費者も買い物の仕方や調理法の工夫等で自主的に食品ロスの削減に取り組むことが求められます。

それでは、私たちはどのように取り組むことができるのでしょうか。食品ロスは、買い物時、家庭での調理時、外食時にそれぞれで発生しているため、削減を意識して行動することが大切であるということを知りました。

参加者からは、知らないことがあり勉強になった、食品ロス削減のため意識をして日常生活を送ってきたいというご意見をいただきました。



※1：平成29年度統計（農林水産省・環境省）

## 事業報告

### フードドライブ実施

栗東市では、10月の「食品ロス削減月間」に合わせて、10月23日(金)・24日(土)にフードドライブを開催しました。

たくさんのご協力、ありがとうございました。



#### これだけの食品が集まりました

2日間行い、即席めんやお菓子、飲料等607点、計199kgの寄付をいただきました。



#### 譲渡先

栗東市社会福祉協議会を通して、市内で食料支援を必要とされる方や子供食堂や学童保育所等の福祉団体に寄付されました。

## 事業報告

### 「小型家電リサイクル集団回収」

9月20日(日) 栗東市総合福祉保健センター(愛称：なごやかセンター)駐車場

小型家電の集団回収を行いました。集まった小型家電総量は14,330kgでした。

小型家電には、価値ある金属が含まれています。また、鉛などの有害な物質は適正な処理が必要であり、違法な回収業者を通じた国内外での不適正処分も大きな問題となっています。

資源の有効利用と、環境汚染防止のため、引き続き小型家電のリサイクルにご協力ください。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、年度当初に予定していた事業の内、次の事業を中止としましたので、お知らせします。ごみ・リサイクル探検ツアー、ごみ減量とリサイクルに関する学習会(委員対象)、年末ごみ拾い(JR栗東駅周辺)、環境を考えるポスター募集

編集・発行 栗東市ごみ減量リサイクル推進会議

栗東市ごみ減量リサイクル推進会議事務局(栗東市役所環境政策課 生活環境係)

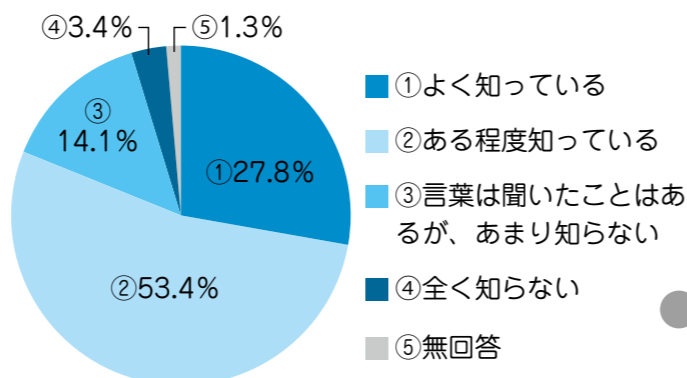
TEL 077-551-0341 FAX 077-554-1123 Eメール kankyoseisaku@city.ritto.lg.jp

# 食品ロスの実態に係る市民アンケートを実施しました

栗東市では、食品ロス削減の推進に向け、市民の実態を把握するため、市民2,000人を対象に「食品ロスの実態に係る市民アンケート」を実施しましたので、その結果をお知らせします。回答数は1,104件（回答率55.2%）でした。集計結果の詳細は、市ホームページでもご覧いただけます。

## 1. 食品ロス問題の認知度

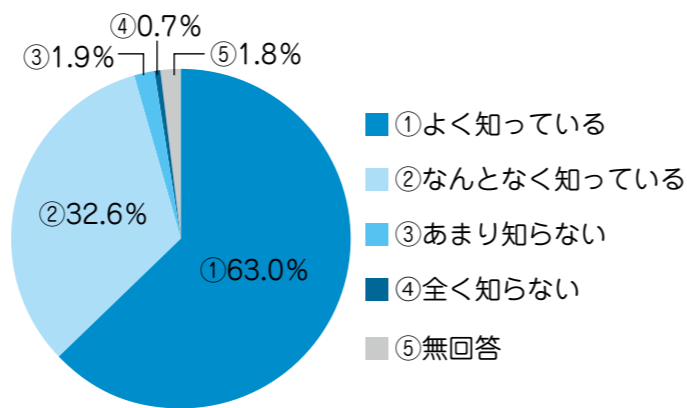
「知っている」が81.2%（「よく知っている」27.8%+「ある程度知っている」53.4%）であった。一方で、「知らない」が17.5%（「あまり知らない」14.1%+「全く知らない」3.4%）であった。



## 2. 賞味期限・消費期限の認知度

「知っている」が95.6%（「よく知っている」63.0%+「なんとなく知っている」32.6%）であった。一方で、「知らない」が2.6%（「あまり知らない」1.9%+「全く知らない」0.7%）であった。

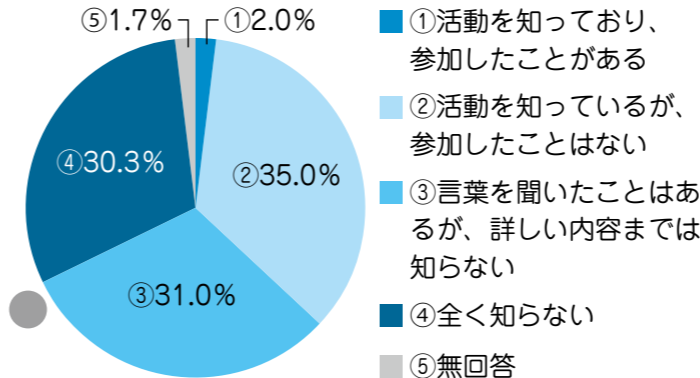
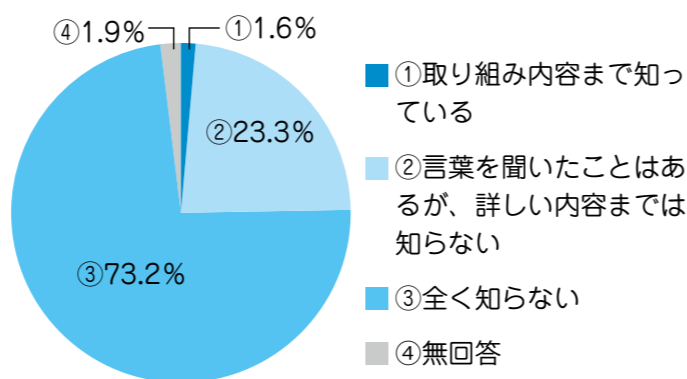
※「賞味期限」とは、おいしく食べることができる期限のことで、この期限を過ぎてもすぐに食べられないということではありません。「消費期限」とは、期限を過ぎたら食べない方がよい期限のことです。



## 3. 「三方よし!!でフードエコプロジェクト」の認知度

「取り組み内容まで知っている」が1.6%であった。一方で、「言葉を聞いたことはあるが、詳しい内容までは知らない」が23.3%、「全く知らない」が73.2%であった。

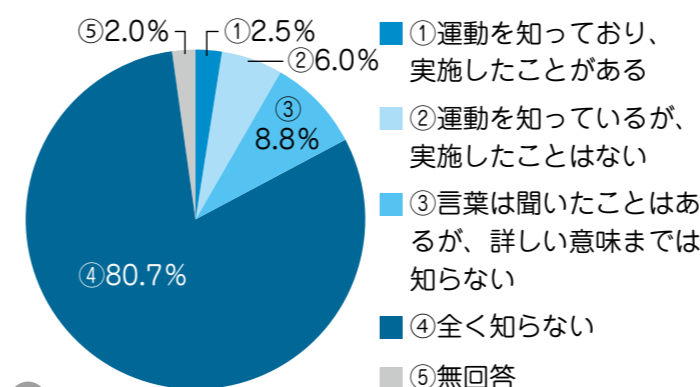
※滋賀県では、「三方よし」の精神のもと、食品ロス削減のための県民運動「三方よし!!でフードエコプロジェクト」に取り組まれており、この一環として、食品ロス削減に取り組む飲食店、宿泊施設、食料品小売店を「三方よしフードエコ推奨店」として登録されています。市内では、令和2年7月現在、11店舗登録されています。ちょっとした心がけで、売り手よし！買い手よし！環境よし！と誰もが笑顔で「よし!!」となるプロジェクトにぜひ御協力ください。



## 4. 「フードバンク活動」・「フードドライブ活動」の認知度

「知っている」が37.0%（「活動を知っており、参加したことがある」2.0%+「活動を知っているが、参加したことはない」35.0%）。一方で、「詳しい内容までは知らない」が31.0%、「全く知らない」が30.3%であった。

※「フードバンク活動」、「フードドライブ活動」とは、食品を必要とする家庭や団体等に、食品関連事業者や家庭等で余った食品を提供する活動です。



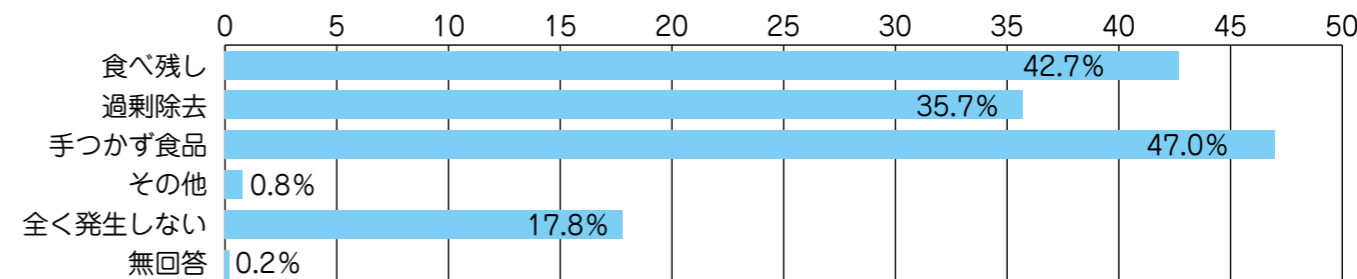
## 5. 3010の認知度

「知っている」が8.5%（「運動を知っており、実施したことがある」2.5%+「運動を知っているが、実施したことはない」6.0%）。一方で、「詳しい内容までは知らない」が8.8%、「全く知らない」が80.7%であった。

※3010運動とは、宴会時の食べ残しを減らすキャンペーンで、乾杯後30分は席を立たずに料理を味わい、お開き10分前になったら自席に戻って料理を残さずいただくというものです。

## 6. 食品ロスの発生要因

「手つかず食品」が47.0%と最も多く、一方で、「全く発生しない」は17.8%であった。



## 7. 食品ロス削減のための取り組み

「『賞味期限』を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」と回答した人が64.8%と最も多くなっており、次に、「残さずに食べる」と回答した人が64.5%であった。一方で、「取り組んでいることはない」と回答した人は1.5%であった。